三嶺

徳島県では「みうね」、高知県では「さんれい」と呼ばれる剣山系屈指の秀峰。四国でもっとも美しい山として登山者の人気を集めている。
名頃からも2時間強、高知県側からも最低3時間、急な山道を登ってはじめてこの山の上に広がるミヤマクマザサとコメツツジが織りなす美しい楽園にたどり着く。
日本二百名山、四国百名山に選定されている。
近年、ニホンジカの食害が深刻で三嶺の景観を大きく変えてしまっている。

北方には寒峰～烏帽子～矢筈山など祖谷山系が連なる

登山口になる名頃は東祖谷の最奥の集落になる。
名頃に入ると800体以上といわれるかかしがいろんな所で人々くらしの姿をしている風景に和む。
天空の村かかしの里としても知られ、「かかし基本台帳」もあるという。

名頃小学校H24廃校

名頃　二重かずら橋　かかしの里　剣山→

名頃のクロ

WC　名頃登山口　鉄塔

2025年は己年

山頂の池には古くから大蛇が住み面白いの儀式が行なわれたことも言い伝えに残る。今は枯れているが小さな池もあり夫婦の大蛇が暮らしていたと伝わる。物部には大蛇伝説がとても豊富にある。

夏緑の森　ミズナラ

樹々が揺れて林床に光がまだらに散る

樹林の中は静かで優しい

星空にも「三嶺」がある。高知市の天文家関勉さんが1983年に発見した星を3262Miuneと命名している。ロマンチックだ☆

三嶺林道

看板　登山口1,650m　三嶺3,350m　130分

山頂では天気が急変する。100m上がると0.6℃ぐらい気温が下がるともいわれ夏でも晴でもカッパは必需品だ。

過去には悪天候による遭難事故がいくつも発生し、命を散らした登山者のモニュメントがひっそりとササ原にある。

ツガ　林道出合い

ゆるやかな登りが樹林帯の中をずっと続く。

ミズナラの大木に会えるのがうれしい

NO.159
2025.1.5

山頂一帯に広がるミヤマクマザサとコメツツジは天然記念物に指定されている。

樹林帯を抜けると空が開けてすごい開放感がうれしい。

←西熊山～天狗塚

工間にはゴミ一つ落ちていない。

WC　三嶺ヒュッテ　古い沢の跡

大崩壊　高ボレ　三嶺　フスベヨリ谷　急登クサリ場　遭難の碑　水場　水場分岐　湿地

いい森は樹木が水を吸い上げるから、標高が高くても湿潤でしっとりしている

ハリギリ、ブナ

ミズナラ林

ひと休みにぼっちりだ。

木もれ日を浴びて気分爽快

林床のサワを食べ尽くすと登山道も不明瞭になって道迷につながる

シカはリョウブが大好きで登山道沿いにも皮を食べられ痛々しいリョウブを目にする。リョウブは皮を食べられても以外に丈夫で「リョウブはジョウブ」とも言われたりする。

西熊の森豊潤で豊か。

南に加加や白髪のふっくらした姿が見える。岩も多くあり、秋には紅葉ともマッチする。★★★

シカの食害が深刻笹原を走る無数のシカ道にがくぜんとする。

湿地　防護ネット

柘木が目につく

1544　見晴見える　看板

2024.6.4
名頃コースで初頂

ダケモミの丘1517

2010年10月このポイントで下山中に首吊り遺体があり10名がモジャクする事故があった。

ダケモミの純林
三嶺　登山口
1,850m　2,450m

一日に5kg～6kgもの植物を食べる大食い。

ニホンジカによる剥皮被害が多い、ウラジロモミを保護するため防護柵や樹木ガードを設置して保全活動が行なわれている。

ニホンジカは地表の植物を食べ尽くす。植生が消えてしまえば雨水が地表の土を流し、どんどん浸食が進んでしまう。登山道も雨水が流れ込むと深く洗掘されてしまう。

三嶺山系の徳島県側でシカの食害が深刻化したのは2000年頃からだ。

シカは一日に5kg～6kgもの葉を食べるといわれる。また徳島側は10頭、20頭という大群が植物を食べ続けている。

カッコウの鳴き声が初夏の森に響く

三嶺ヒュッテと池この景色、何度でも見たくなる

山の天気は変わりやすい。晴れた!!と思うとあっという間にガスにつつまれることもある。

三嶺の山頂からは360°の大パノラマが広がる。剣山から白髪山～西熊～天狗塚～遠く石鎚山まで四国のほとんどの山々を見わたすことができる。四国でいちばんの展望だ!!

三嶺

さおりが原の由来

1972-3年頃、高知大学ワンダーフォーゲル部教人のパーティーで三嶺からの下山中、気持ちの良いこの場所で休憩をとった。その時に誰かが「ここに名前をつけませんか」という提案があった。
その時に手を上げたのは原くん。彼が土佐山田出身の漫画家「はらたいら」にひっかけ「原平(はらだいら)」にしようと提案すると南沙織のファンだった坂下くんが即座に反応し「いやいや、沙織が原がいいでよ」ということになり、なかなか決着しそうになかったので、それじゃあ、じゃんけんで決めようということになり、みごと坂下くんに軍配が上がって、部内では当地のことを「沙織が原」と呼ぶようになった。
(高知大学ワンダーフォーゲル部出身の松林直行さんに教えて頂く)